5 世紀の前方後円墳の内部を発掘する

―大隅大崎・神領 10 号墳の石棺と副葬品―

鹿児島大学総合研究博物館　第 41 回市民講座　2023 年 7 月 29 日
橋本達也（鹿児島大学総合研究博物館　教授）

はじめに

神領 10 号墳の発掘調査：2006 ～ 2008 年・2010 年
鹿児島大学総合研究博物館　2023.3『大隅大崎 神領 10 号墳の研究　Ⅲ』

1. 古墳時代とは（まずは初歩的ながら）

３世紀中葉～７世紀初頭：弥生時代・邪馬台国以後～飛鳥時代以前：5 世紀＝巨大古墳の時代
　前方後円墳を中心とする古墳の形と規模によって被葬者の権力・身分を表示：政治関係の表示
政治・社会共通圏の形成
　東北南部～鹿児島・広域の社会共通圏（弥生時代は地域圏の出現）
最大規模墳および大型古墳の集中
　政治中枢の形成・ヤマト政権
頻繁な地域間・広域交流
　東アジア的規模
社会の複雑化－国家形成期

原図：新納泉 1989「王と王の交渉」
『古代史復原６』講談社（改変）

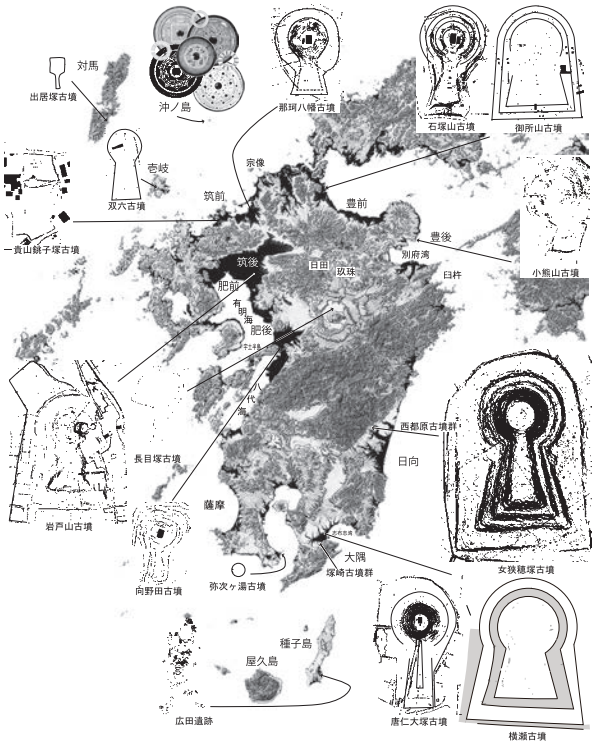
古墳の分布

大阪府近つ飛鳥博物館展示模型

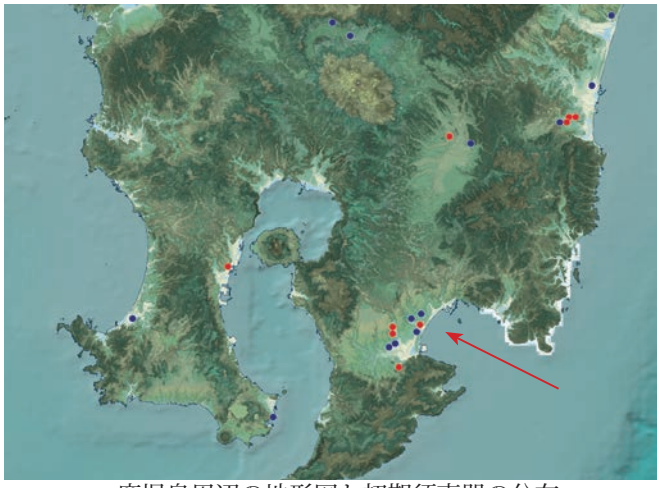
古墳の構造

2. 神領 10 号墳とは

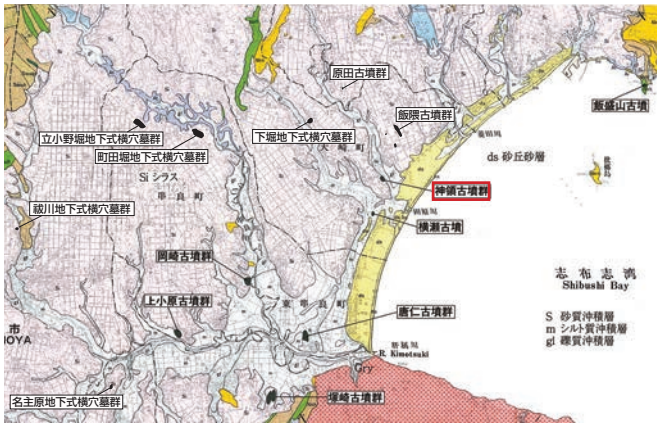
前方後円墳（墳丘長約 54m）
鹿児島県曾於郡大崎町（大隅半島肝属平野）
古墳築造最南端の地域
5 世紀前葉～中葉　（TK216 型式段階・西暦 430 年前後、約 1600 年前）
今回は後円部墳頂、埋葬施設の調査成果を紹介



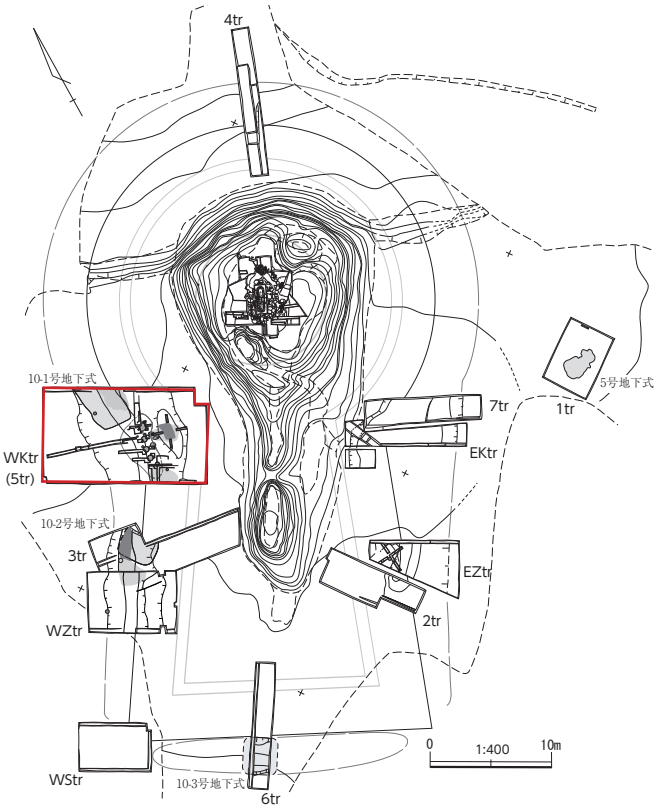
九州の主要古墳分布



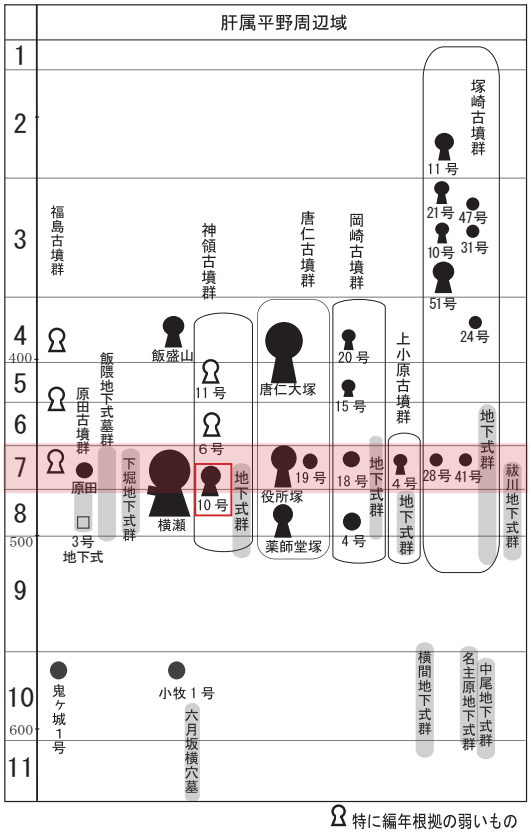
鹿児島周辺の地形図と初期須恵器の分布



神領古墳群の位置



神領 10 号墳墳丘図



肝属平野の古墳編年

3．神領 10 号墳の埋葬施設の発掘調査について

後円部墳頂の調査は、第 1 次調査から行っていたが、徐々に掘り下げを進め、埋葬施設の本格的な調査は第 3 次調査。

第 1 次調査：2006 年、調査の主体は墳丘周辺トレンチ。埴輪の出土。

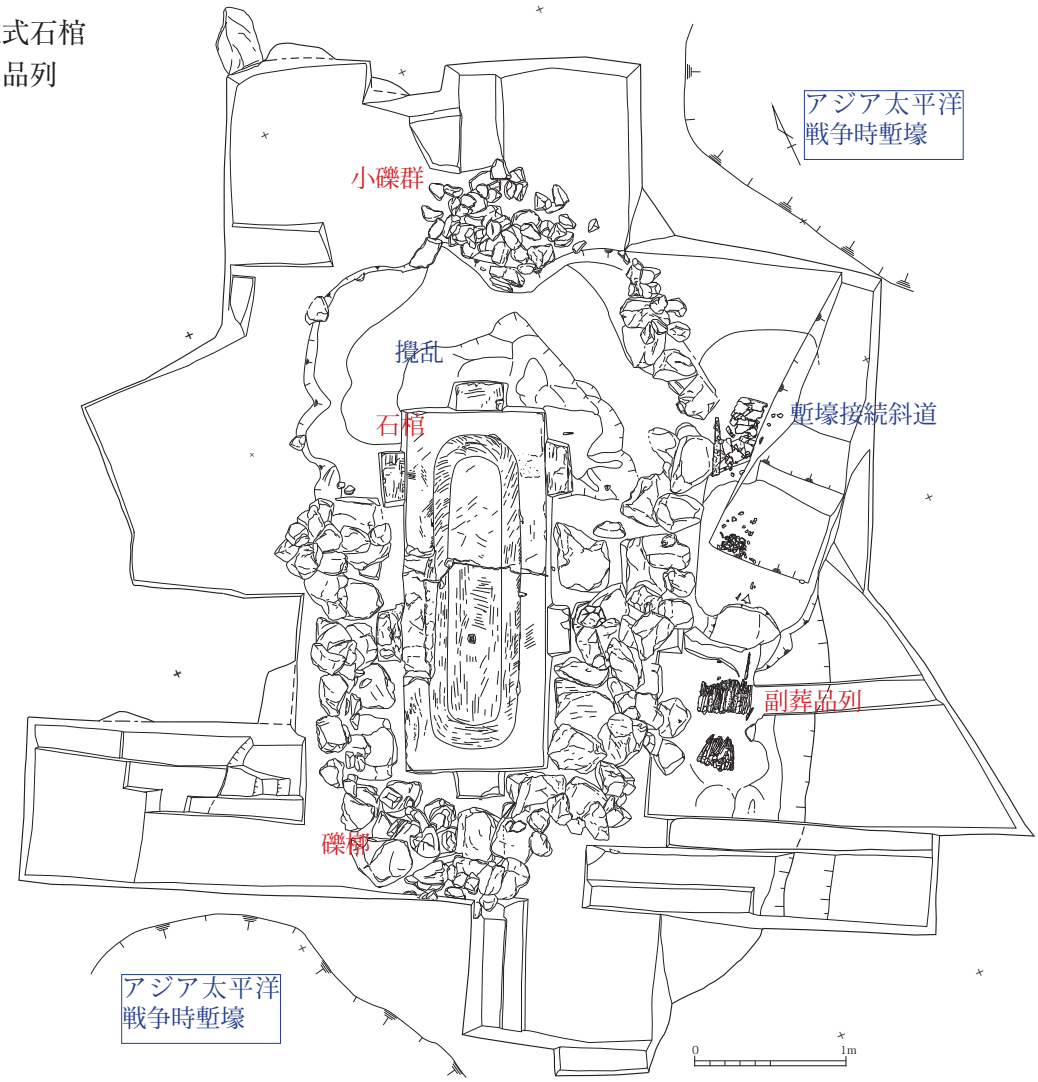
第 2 次調査:2007 年、墳丘西側トレンチ調査。調査の主体は西側クビレ部祭祀土器群。

第 3 次調査：2008 年、埋葬施設の調査と墳丘東側のトレンチ調査。

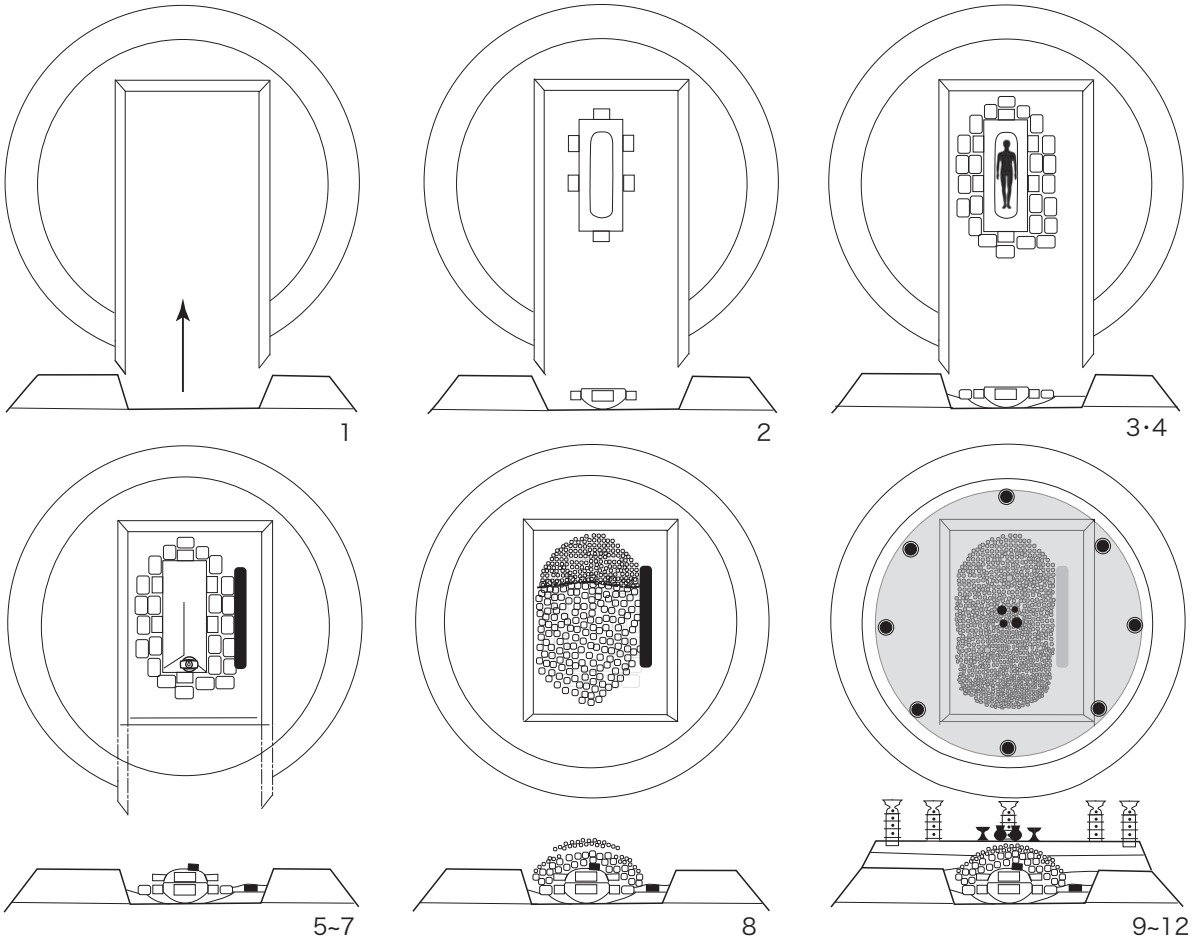
墳頂トレンチ調査各次範囲

4．神領 10 号墳の埋葬施設の構造を知る

・礫槨
・刳抜式石棺
・副葬品列



第 3 次調査墳頂調査区全体平面図

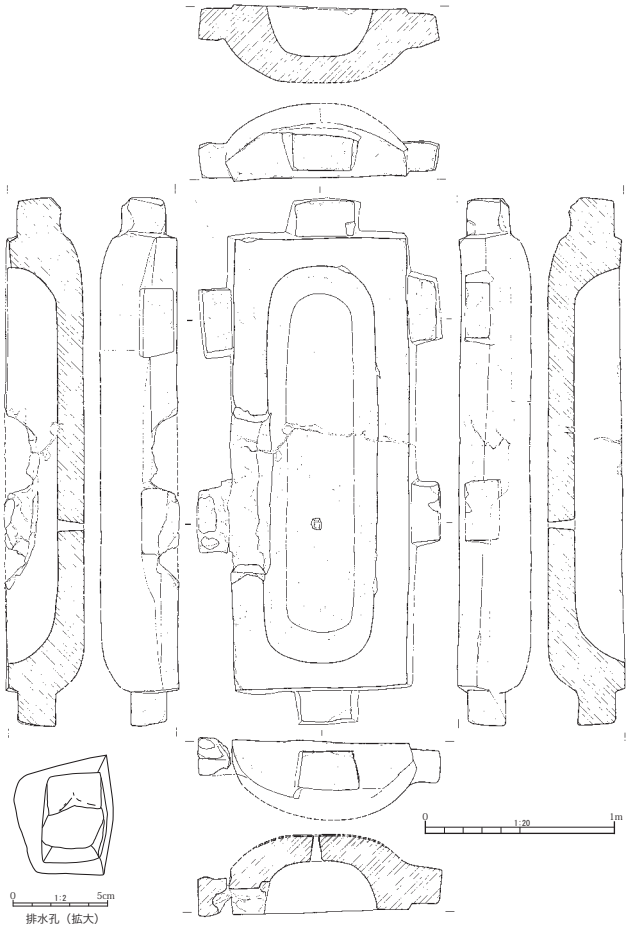


神領 10 号墳主体部構築過程

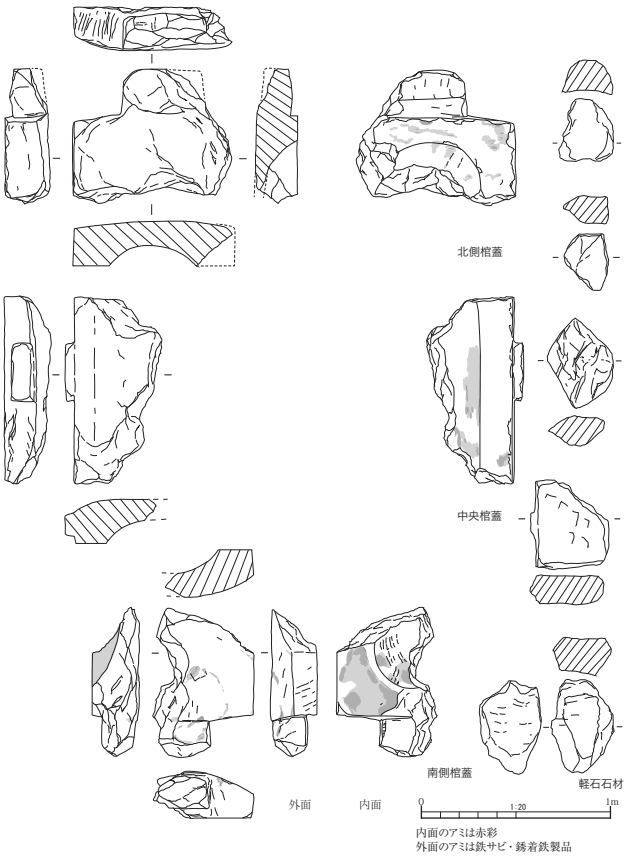
1）埋葬施設が入るスペースの墓壙を構築する（掘り込み墓壙ではなく、構築墓壙）。その際、前方部側の墓壙壁は開いていたと考えられる。
2）石棺棺身を前方部側から引き入れて設置する。石棺は古墳の中心で、ほぼ水平に設置される。
3）棺身下半を埋め、周囲に大型で平らな軽石を並べる。
4）石棺に人体を埋葬する。棺内副葬品を配置する。
5）石棺蓋を閉める。この段階までは前方部側墓壙壁が開いているのか。
6）棺蓋上遺物を配置する。
7）棺外副葬品列に副葬品（武器・武具）を配置する。埋める。
8）軽石と土で上部礫槨を構築する。最上層は軽石小礫で覆うと考えられる。
9）墓壙内全体を土で埋める。
10）上部に盛土を行う。
11）埴輪を樹立する（円筒もしくは朝顔形埴輪が中心となる）。
12）土器を用いた祭祀を行う。

5. 神領 10 号墳の石棺を知る

・夏井海岸、入戸火砕流・凝灰岩
・刳抜式石棺は肝属平野では、唐仁大塚古墳のみ
・共通する石棺の分布―延岡、石工の招来
・船―港―標高 28m の丘陵上まで運搬



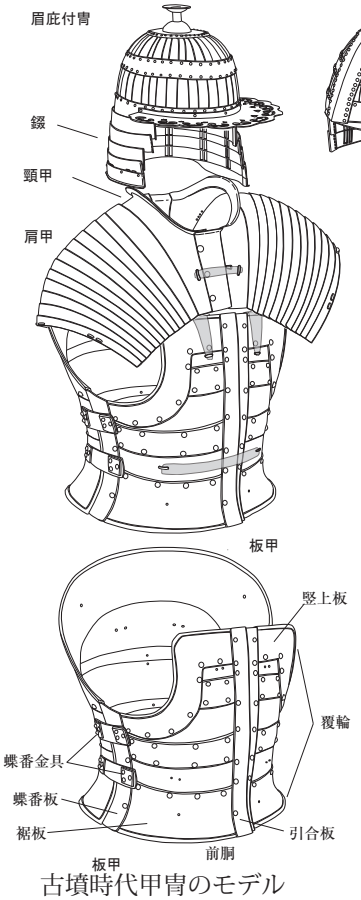
石棺棺身



石棺棺蓋（残存部）・軽石石材（攪乱土中出土）

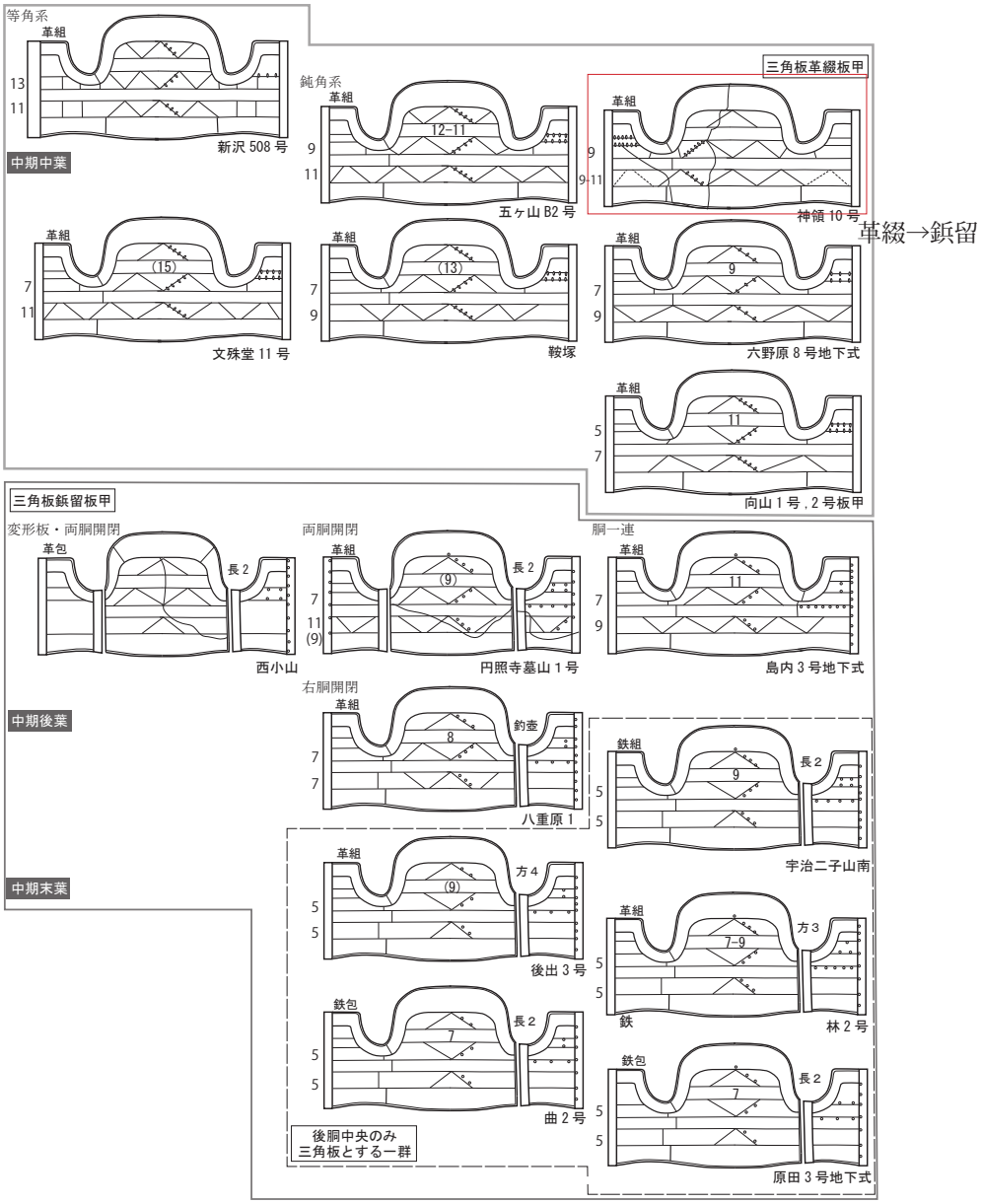
6. 神領 10 号墳の副葬品を知る

・甲冑
　金銅装眉庇付冑・三角板革綴衝角付冑・三角板革綴板甲・鋲留板甲・頸甲・肩甲・帯状鉄板・器種不明鋲留甲冑片
・鉄鏃
　圭頭鏃・柳葉鏃・有頸鏃・重抉腸抉短茎鏃・腸抉透孔短茎鏃
　中期様式・在地系中期様式変容
・胡籙
　胡籙出現期資料・新羅からの移入品
・その他の副葬品
　剣（3）・大刀（2~3 以上）・鉾・刀子
　勾玉・管玉
　鏡はなかったか？

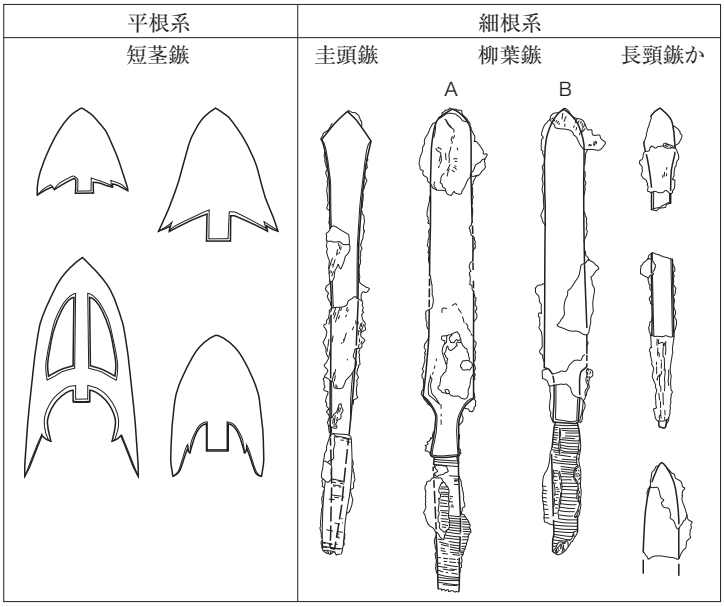


古墳時代甲冑のモデル

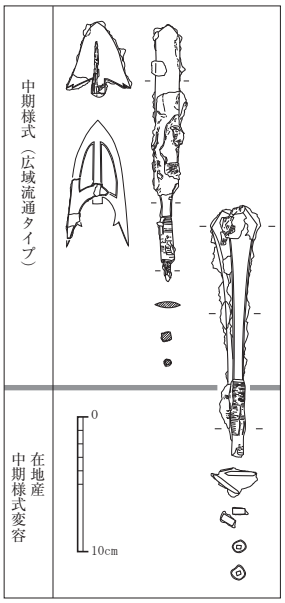
金銅装甲冑分布図



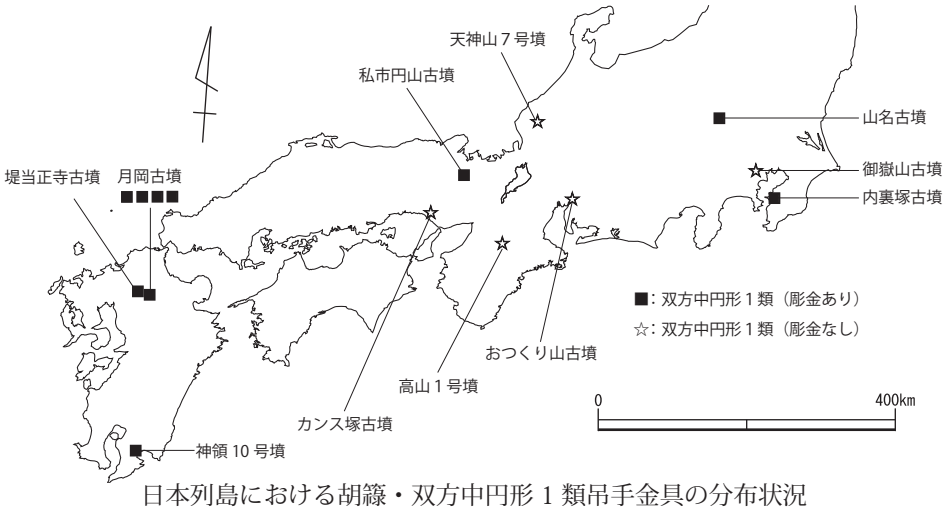
前胴長方形分割の三角板板甲



神領 10 号墳の鉄鏃構成



九州南部鉄鏃様式における
神領 10 号墳の位置



日本列島における胡籙・双方中円形 1 類吊手金具の分布状況

7．神領 10 号墳の被葬者像と 5 世紀の古墳の実態

考えるための情報

・時期

古墳時代中期中葉＝ TK216 型式段階＝ 5 世紀前葉～中葉

大仙陵古墳の時代、横瀬古墳の時代

・墳丘

墳丘長約 54m、中型の前方後円墳、肝属平野では横瀬古墳に次ぐクラス

・埋葬施設

礫槨：非在地墓制、首長層間での情報によるものか

石棺：石工技術＋運搬技術＝多大な労力。有力首長層。肝属平野では最大の前方後円墳、唐仁大塚古墳で類例

副葬品列：近畿中央部を中心に、大量の副葬品を納める有力首長層の埋葬施設でのみ確認。

・副葬品

甲冑：近畿中央政権の配付品。なかでもすぐれたセット。政権に重用された首長。

鉄鏃：攪乱で状態不良ながら、大量出土。すぐれた武器の大量保有。

胡籙：新羅産、朝鮮半島を含む広域交流での活躍。

・クビレ部祭祀土器

初期須恵器：市場南組窯系須恵器、陶邑窯系須恵器。広域交流。新進の文化受容

土師器を含む大量の祭祀土器。なかには大阪湾沿岸～東部瀬戸内の製塩土器

・埴輪

横瀬古墳と神領 10 号墳のみ窖窯焼成の円筒埴輪

近畿中央以外では類例の少ない初期の人物表現、盾持人埴輪。

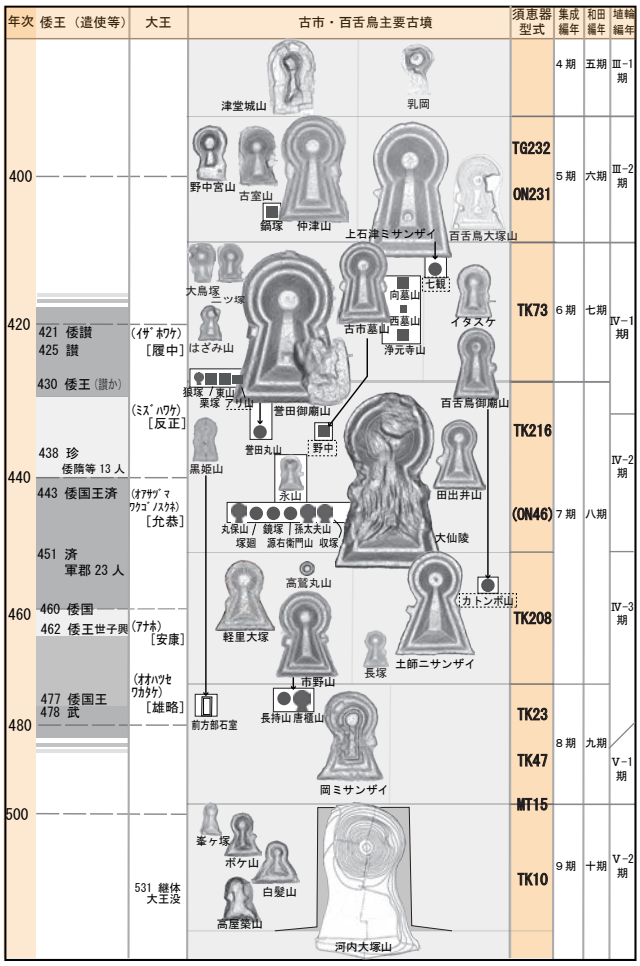
被葬者像と古墳の実態

古墳時代の近畿中央から朝鮮半島にもつながる広域交流ネットワークに連なり、盛大な埋葬施設や大量で、すぐれた内容の副葬品をもっている。広い地域で活動し、評価された首長。

肝属平野周辺域では、横瀬古墳と同時期で、埴輪を共有する密接な関係。距離の近さからも、同一首長系譜に位置づけられる。横瀬古墳を頂点とする首長層のなかでは No. 2 の地位。

横瀬古墳の被葬者とともに、近畿中央の大王を中心とする政権のなかで活動し、高い地位を得た人物。

5 世紀、「巨大古墳の時代」を知る典型的な内容をもつ古墳。



大阪府古市・百舌鳥古墳群編年